

＋ 健康な未来のために ＋

女性のためのがん検診

女性がかかるがんのうち、子宮頸がん^{けい}と乳がんは、比較的若い世代からリスクが高まります。
がん検診の対象となっている人は必ず受診しましょう。

20歳
から

子宮頸がん検診



20代後半から急増
年間1万人が新たに診断される

子宮頸がんはおもにHPV（ヒトパピローマウイルス）というありふれたウイルスに感染することで発症するがんです。20代後半の若い世代から急増するのが特徴です。早期に発見・治療できれば完治しやすいがんですが、進行すると子宮を摘出する手術が行われることもあります。「まだ若いから」などと油断せずに必ず検診を受けましょう。

検診の内容

対象 20歳以上

頻度 2年に1回

検査方法 問診・視診・内診・細胞診

※子宮頸がんの発症につながるハイリスクHPVの感染の有無を調べる **HPV検査**を実施している自治体もあります。また、HPV検査単独法を導入している自治体では、問診などに加え、20代は2年に1回の細胞診、30歳以上は5年に1回のHPV検査が実施されます。

40歳
から

乳がん検診



9人に1人がかかるがん
30～64歳の死亡原因のトップ

乳房の乳腺に発症する乳がんは、遺伝やホルモン、生活習慣などがリスク要因になります。乳がんは女性のかかるがんでもっとも多く、発症のピークは40代後半と60代です。マンモグラフィ検査では、1mm以下の石灰化の段階で発見できることがあります。早期に発見・治療すれば、完治できる可能性が高まります。

検診の内容

対象 40歳以上

頻度 2年に1回

検査方法 問診・
マンモグラフィ検査

※日本人女性に多い「高濃度乳房（乳腺が多い乳房）」は、マンモグラフィ検査ではがんを見つけにくいことがあり、**超音波検査**を併用することで精度が高まります。自治体によっては、超音波検査を選べるケースもあります。